

2022年2月20日 聖餐式説教

顕現節も第7主日となりました。本年は来週の水曜日を持って顕現節から大齋節へと移っていくこととなります。そこで大齋節を迎えるにあたって私たちがどのようなことを勧められているのかを本日の主日から学んでみたいと思います。

本日の特祷は愛が主題になっています。そして選ばれております旧約聖書、使徒書、福音書いずれも私たちが学ぶべき神様の愛について語っています。

旧約聖書を最初に見てまいりましょう。本日の箇所は創世記の最後のひとまとまりとなっておりますヨセフ物語のクライマックスとも言えるところです。父ヤコブがヨセフばかりをかわいがるのを見て、兄たちはそれを気持ちよく思わず、落とし穴に入れて、ヨセフはエジプトへ売られていくことになってしまいました。エジプトでも長きの困難がヨセフを苦しめましたが、王様の夢を解き明かしたヨセフは国の施政者に任じられ、国を飢饉から救うために働きました。飢饉は故郷にもおよび、兄たちが食物を買いに来たのです。ヨセフはそれが兄たちだとすぐに気づきましたが、兄たちはヨセフだとはわかりませんでした。そしてヨセフは自分の身を明かしたのが今日の箇所です。

兄たちの意地悪のせいで、自分は故郷を離れ、何十年もの日々を過ごさねばならなかったのですが、ヨセフは、命を救うために、神様が自分をエジプトへ遣わしたのだと言い、これはすべて神様の人知を超えた計画によるものだと言ったのです。ヨセフは兄たちへの仕返しを全く考えず、神様の大きな御業にすべてを委ねていたのです。

使徒書に目を移してまいりましょう。死人の復活についてのパウロの教えです。人間は必ず死ぬものとして命を与えられていると考えていた人々にとって、永遠の命への招きとは何か、老人となっていく肉体がどうなるのか、コリントの地では、命の定めと永遠の命との関係について多くの人が答えを出せずに行ったのに対して、パウロは肉の体が復活するのではなく、私たちには霊の体を与えられ、そのうちに復活するのだと、人々に明確に示し、永遠の命をしっかりと求めるようにと説き明かしたのです。ここにも神様の愛がパウロによってはっきりと語られているのです。

福音書には、愛とは本来、自分の利益を求めたり、見返りを求めたりはしないのが示されています。イエス様の教えには、神様が人間を無条件に愛し、私たちに降り注いでいること、神様の愛からもれる人は一人もなく、人間の考えや都合、意思とは関係なく、すべての人に降り注がれ、神様は何一つ見返りを求めてはおられないこと、神様に愛されている私たちは、愛されているものの当然の責任として、互いに愛し合うことが語られているのです。

このように大齋節をあと 10 日後に控えた私たちは、大齋節の心構えについて学びます。大齋節は言うまでもなく自己修練の時です。悪の誘惑に立ち向かい、それに打ち勝つことを主題として過ごしていくのです。悪の誘惑に打ち勝つことは年間いつでも重要なことですが、大齋節は年間で特にそのことに気をつけて過ごすことが勧められているのです。

その大齋節は、愛の修練の時であるのがこうして示されるのです。悪魔に立ち向かうのには愛が必要です。なぜなら、悪魔は人間の能力を超えた存在ではありますが、愛することができません。私たちがしっかり愛すること、愛し合うことを実現できれば、悪魔に負けることはないのです。

大齋節を 10 日後に控え、私たちは本日、神様の愛について学び、神様に愛されている者として、人を愛し、互いに愛し合うことを改めて心に刻みます。新型コロナウイルスの影響で、私たちが互いに愛し合うことが改めて問われることとなりました。よき一週間を過ごし、顕現節と大齋節の橋渡しの時を共に過ごしてまいりましょう。